昭和20年代の甲府盆地の文化活動

中野良男

「童連」

す。 尽くした「甲府空襲」は、その日付から「七夕空襲」とも呼ばれていま尽くした「甲府空襲」は、その日付から「七夕空襲」とも呼ばれていまにかけて、アメリカ軍爆撃機B‐29が焼夷弾等で甲府の市街地を焼き太平洋戦争末期の1945年(昭和20年)7月6日の深夜から7日

抗した取り組みを継続しています。期的に企画展を組み、毎年この時期に講演会を開催するなど「風化」に甲府空襲の体験者も年々減っていく中「山梨平和ミュージアム」は定

こし出尽くした状態なのでしょう。かマンネリ気味なのは、戦後も70年以上が過ぎると既に話題も掘り起ぐ記事や番組が組まれ、報道されるのが恒例となっていますが、いささ山梨県内の新聞やテレビでも毎年七夕の前後に「甲府空襲」を語り継

載させていただきます。

、バーとして取材を受けての記事でした。承諾を得ましたので全文を転方々の取り組みで、「駈風」でも紹介してきた平原国男さんがその中心メ録として残しておきたい」と活動を始めた私たちより十歳以上年長の事が載りました。それは「空襲後の甲府市に文化活動があったことを記事が載りました。それは「空襲後の甲府市に文化活動があったことを記事

と取り組んでいる。(荒谷康平) 員だった東京都多摩市、平原国男さん(83)らOBが残そうと設立された児童劇団「童連(どうれん)」の記録を、劇団を設立された児童劇団「童連(どうれん)」の記録を、劇団

内では最大の被害となった。 上が焼失、市民ら1127人が犠牲になるなど、戦時中の県戦域に投下し、市内の全住戸約2万5000戸のうち6割以れ、「七夕空襲」とも呼ばれる。米軍が大量の焼夷弾を市内※甲府空襲 1945年7月6目深夜から7日未明まで行わ

いうちに踏んでしまっていたのでしょう」と襲当時、平原さんは国民学校5年生。空襲は初めてで、空襲当時、平原さんは国民学校5年生。空襲は初めてで、空襲当時、平原さんは国民学校5年生。空襲は初めてで、空襲当時、平原さんは国民学校5年生。空襲は初めてで、

甲府空襲希望の児童劇団

に相談し、賛同者が集まって「童連」を設立した。一緒に子ども向けの絵本や童話を作っていた小学校教諭ら界医が「生きることや将来に夢を持ってもらおう」と考え、た。街では、空襲でがれきとなった砂糖間屋の倉庫に戦災孤無事だった家族と市内の旅館に仮住まいし、2年はど過ぎ

原さんは劇部に入った。放課後に市内の小学校に集まり、教諭らの指導楽部」「舞踊部」に分かれて練習を始めた。歌や踊りが得意でなかった平やってみない?」と声をかけられた。児童約50人が集まり、「劇部」「音平原さんは、通っていた小学校の教諭に「子どもの劇団ができるから

にかく楽 を受けながら なって舞台装置を作り、 しかった」。 「風の又三郎」やオリジナルの劇を練習した。 本番が近付くと週に2~3回練習した。 衣装は親が作るなど全て手弁当だったが、 一先生が裏方

は映 と思い返す。 だったので、 人の子どもが集まったこともあり、 などのオリジナルの歌も歌っ か 三画館で1~2日ずつ上演。 演は1947年、 に胸張って」「楽しい日本はもうすぐだ」という歌詞の つも超満員だった。延べ1万人は見てくれたと思い 県議会議事堂で行われた。 ステージでは、 た。 平原さんは 入場は無料で、 明るいメロディー 「娯楽に飢えてい その後、 1 口 毎年 1の公演 「かおる花 一春と秋 ます 7

ま時が流れた。 て約100人の子どもが活躍したが、 後の混乱が落ち着 13 た50 年 頃 童連の活動 転居などで散り散りと は終 わ 0 た。 なっつ 劇 寸 たま 員

なって た。 内に住んでいたり各地に引っ越したりしたOBに呼びかけ まろう」という話になり、 空襲後の甲 グラム う話 不京在住 「童連の や新聞 が持ち上がった。 0 - 府市に文化活動 記事の切り あゆみを記録する会」 В が童連で指 抜 間もなく、 90年に甲 き、 があったことを記録として残しておきたい 導 L 写真などを段ポ てくれた人を訪 を作った。 平原さんらOB20人が発起人と 府市内のホテルでOB会を開 2~3年をかけて、 1 ねた際に ル ひと箱分ほ て、 ーみん 当 はど集め んなで集 時 0 市

В 行方不明に。それでもコピーは手元に残されていたため 生を始 たちで話し合い 人は か 8 0 В 当 が 料 時 元気なうちに何とか 集めを担当 を進めて 董連の舞台を見た人の感想なども盛り込もうと、 一した〇 В 本にまとめ 0 死去や 転 たい」と 居 のため に多くの 再ぴ資料 平原さんら発 の整 0 は

は

番資料もあり、

頼りが

1

があると期待するのは自然でしょ

と思う。 ている。 -原さんは け 野 「甲府空襲は悲し 原に文化の花が咲いた歴史を次世代に残したい い記憶だが、 童連は人々の心を P した

平



20 18年7 童連オリジナルの歌「かおる花束」 の楽譜を手にする平原さん。 月5日読売新聞山 梨版 より

踊りを披露する「童連」の子どもたち。 客席は観客でいっぱいになっている。 (平原さん提供)

平原さんは 露 に来て書い その中で読売の荒谷記者が、 の存在と活動を話し、 加した平 していましたが、 6月30 原さんは、 たのが上の署名記事です。 日 「山日新聞が乗っ 日 「童連」 に山梨平 終了後、 資料収集につい の関連資料を集め すぐ反応し てこなかっ 取 和ミュージアム主催の 材に来てい ての協力を呼かけたそうで たのは て平原氏 た報道各社 ていく上では、 ちょ が っと寂 住 シンポ む多 の記者に ジュ 摩市まで 山田 ームに参 ね 童連 2 取 聞 吐

転

載

たことを写真が物語っているからです。の舞台を楽しみに観る子どもでは、圧倒的に後者の観る子どもが多かってれは、この「童連」に入って踊ったり演じたりする子どもと「童連」

うな同級生もいそうです。りませんし、私は全く記憶にありませんが童連を観たと云う大野君のよた。私たちの兄や姉の中には「童連」のメンバーがいても不思議ではあまれる2年前から始まり8歳位まで続いていた児童劇団が「童連」でしまれる2年前から始まり8歳位まで続いていた児童劇団が「童連」でしまれる2年前から、私たちが生

した。

もその筋の先生が仕切っていたことを覚えています。ません。私達の小学生時代でも「学芸会」とか「鼓笛隊」等の役決めで云わば先生のお目に適った小学生が童連入りしたことは想像に難くありすから、甲府市内各校のそれぞれの教師が「この子を・・」と選抜した、平原さんは、学校で担任から声をかけられて「童連」に入ったそうで

やチェックを経て選ばれたエリート集団だったのでしょう。市内の学校から児童を集めるより大きな組織になれば、それなりの基準まあ、それが問題という訳ではなく、校内行事でも当たり前だったから

問われたことでしょう。う音楽や演劇を提供する劇団ですから、当然基準の一つに親の経済力も活動というより、そういう状況だからこそ夢や希望を持てるようにと云食べることにも事欠く敗戦当時、食うや食わずの少年少女を集めての

す。 まで進んだようですから経済的にも恵まれていた方々だったのは確かですし、現在も交流のある「童連」のメンバーは、後に高等女学校や大学平原さんのお父さんも甲府の中心街で大きな商店を経営していたそうで

その辺についても平原さんに率直に聞いてみました。

て来ていましたね」と話し「読売の記者に私が何度も強調して話したの「そうですね。指導者の方が時々、親の所に奉加帳みたいなものを持っ

いた事を後になって知りました」と具体的な名前を挙げて教えてくれまらなかったけど、甲府の経済界の方が資金援助も含めて協力してくれてと続き「童連がどう運営されていたのか小学生だった当時の私は全く知もそのことだったのに記事には全く入っていなくてそれが残念で・・・」

本さんの名前が無いのが不本意のようでした。回、舞台で挨拶もしてくれたのを覚えています」と話したのに記事に笹に「常盤ホテルの笹本さんは、童連の後援会長を引き受けてくれて、毎その代表が一代で常盤ホテルを興した笹本吾郎氏だったそうで、記者

と遠慮がちに話すのが平原さんでもあります。思っています」と、お世話になった方々より自分の事の記事が多すぎる「現在の社長さんは息子さんだそうですから私は手紙でお詫びしようと

のが平原さん達の思いです。が子ども達の劇団活動から始まったと云う歴史を伝えていきたいと云う今のうちに童連についての資料を整理し、戦後の甲府盆地での文化活動要は、童連のメンバーだった方々も高齢となり鬼籍に入っていく中、

等々、平原さん達の探求心は尽きません。って指導してくれた市内の教師たちの思いや何故十年で幕を閉じたのかった指導してくれた市内の教師たちの思いや何故十年で幕を閉じたのか

輩たちの足跡も残していることと思います。山梨県の教員の諸活動については、山梨県教職員組合が資料を含め先

もいるかもしれません。(笹本健次君の父・吾郎氏のように私たちの親もこの活動に参加した方)

911)までお寄せいただけますようお願いいたします。 童連に関するどんなことでも情報を平原さん(080‐5171‐1

本日、7月6日 「甲府空襲」の慰霊に際し、昭和43年卒業生の会

「よん燦会」の文集【駈風(かぜ)】から関連記事を抜粋させて戴き、

皆様のお手元にお届けすることが出来ました。

この「駈風(かぜ)」は、平成23年(2011年9月5日)に創刊され、

現在まで16号を発刊されています。

題名は、寺山修司の

「駈けてきてふいにとまればわれをこえてゆく風たちの時を呼ぶこえ」

を出典としているそうです。

ご協力ありがとうございました。